

平成21年度鹿児島市学校教育研究大会に係る研究実践の最終報告

鹿児島市立西紫原中学校

I 研究主題について

1 重点目標

- (1) 心の教育の充実に努める。
- (2) 学業指導の充実に努める。
- (3) 道徳教育の推進に努める。

2 研究主題設定にあたっての課題

(1) 学習指導

- ・ 基礎学力の定着を図る指導のあり方
- ・ わかる授業の創造，学習に対する興味関心を高めるための方策
- ・ 主体的に取り組ませるための方策
- ・ 生徒の実態に応じた学習課題の工夫と設定

(2) 生徒指導

- ・ 自ら生活を改善する意志や意欲を持つ生徒の育成
- ・ 学校における人的環境の醸成（生徒対生徒，生徒対教師の望ましい人間関係）
- ・ 心に届く教育の実践
- ・ 生徒の主体的な学習を促す教育活動の展開

※ 上記課題の考慮し，次のような研究主題及び研究仮説を設定した。

心豊かで，たくましく生きる力を育む教育活動の展開
～道徳の時間を通して思いやりの心を育てる指導～

3 研究の仮説

研究の仮説1

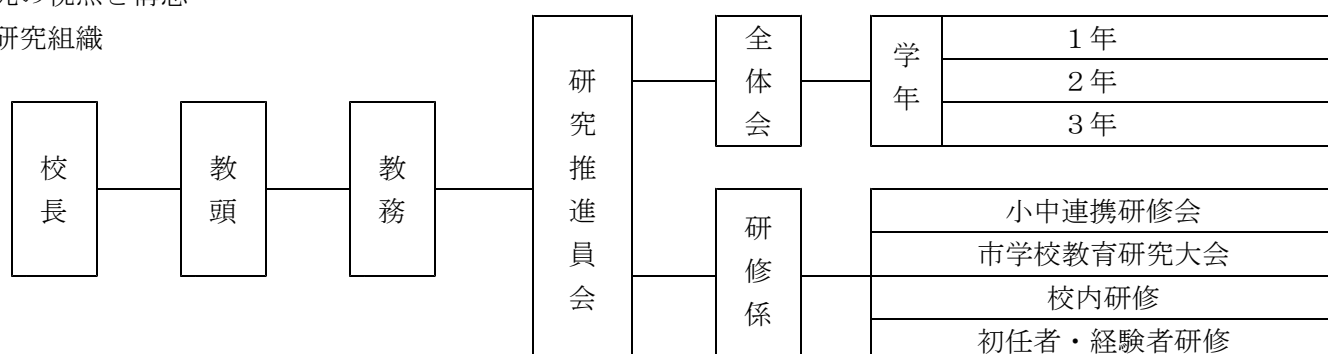
- 心の教育や心に届く生徒指導を充実させるとともに，体験的な活動を生かした道徳の時間を行うならば，思いやりの心を育てることができるだろう。

研究の仮説2

- 個々の生徒が自立するとともに，互いに助け合い，学び合い，思いやりをもちながら，問題解決できる力を育むことができれば，よりよい生活を求める意識や行動力を身に付けさせることができるだろう。

II 研究の視点と構想

1 研究組織



2 研究の視点

○生徒一人一人が学ぶ意欲を持ち、進んで問題解決ができる学習指導法への改善を図る。

○生徒の実態や本校の特色に応じて、創意工夫を凝らした教育活動の実践に努める。

3 研究内容

- (1) 心の教育の充実
- (2) 学業指導の充実
- (3) 道徳教育の推進

III 研修計画（校内研修年間計画及び実施）

期	月	日	曜	研修項目	研修内容	時間(分)	分担・担当
1	4	13	月	研究体制の確立	研修主題・年間研修等について	10	職員会議 研修係
	4	20	月	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントに関する研修	60	生徒指導係
	5	25	月	生徒指導	家庭訪問を終えての共通理解事項等	60	生徒指導係・担任
	6	15	月	特別支援教育	特別支援生徒の共通理解	60	特別支援教育係
	7	13	月	道徳	研究授業及び授業研究（3年）	60	道徳係 授業者
	8	21	金	生徒指導 新学習指導要領 学習評価	講師依頼による研修 講師依頼による研修 標準学力検査の分析と活用	60 60 30	生徒指導係 研修係 評価係・各教科主任
2	10	26	月	特別活動	講師依頼による研修	60	学級活動係
	11	30	月	人権同和教育	同和教育全般についての共通理解	60	人権同和教育係
	12	14	月	道徳	研究授業及び授業研究（1年）	60	道徳係 授業者
3	1	25	月	道徳	研究授業及び授業研究（2年）	60	道徳係 授業者
	2	8	月	保健	AEDの操作等	60	保健係
	3	15	月	年間研修のまとめ	年間反省 次年度の検討等	60	研修係

IV 研究の実際

1 基本的な生活習慣の確立

(1) あいさつ運動

ア 生徒会のあいさつ運動

生徒会役員が、あいさつのあふれる学校をめざし、生徒玄関前であいさつをする活動である。生徒会役員が、ローテーションで行い元気なあいさつをしている。また、教師も生徒会役員と一緒にあいさつ運動を行っている。

イ PTA生活部のあいさつ運動

PTA生活部の取り組みで、毎週月・火曜日に各校門（3カ所）にて担当学級の保護者・生徒があいさつをする活動である。7時45分から8時までの15分間行っている。

(2) 一分前着席，黙想

本校の開校時からの伝統である一分前着席は、生徒が授業始まり一分前に着席し、その後総務の呼びかけによって黙想をするものである。本校は、チャイムがならない（ノーチャイム）ので時計を見て、生徒は自主的に行動している。

(3) 掃除前の静思

静思とは、掃除始業時の音楽（30秒ほど）がなると、掃除活動場所で動かずに静かにしていることである。昼休みと掃除との気持ちの切り替えをする時間となる。

(4) 生徒指導部「一時徹底」

生徒指導上の課題を踏まえ、生徒指導部から毎月「一時徹底」が出される。例えば、「時間を守る」、「あいさつをする」などその一ヶ月、生徒も教師も意識しながら取り組むようにしている。

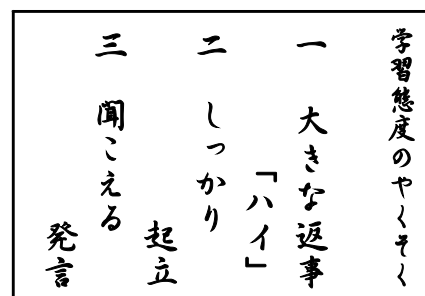
2 基本的な学習習慣の確立

(1) 「学習態度のやくそく」

学習指導の係から、年度初めに「学習態度のやくそく」が出された。三つの約束を実行できるように教師が共通理解を図り、各授業の中で指導をしている。

(2) 「学習の手引き」の活用

年度初めに、「学習の手引き」が生徒へ配布される。その中には、各教科の授業の受け方やノートの取り方、勉強の仕方、また学習法チェック表など記載されている。「学習の手引き」があることで、生徒は共通理解を図ることができ、効果的な学習方法やノートの取り方など身に付けることができる。



学習態度のやくそく

3 学習環境づくり

(1) 学級設営の充実

生徒会文化部による学級設営コンクールが年2回（5月，1月）行われる。各学年ごとに最優秀賞，優秀賞を設定するため、各学級の文化部を中心に生徒が一生懸命活動している。審査基準は、学習環境にふさわしいものであることが前提となり、文化部からしっかりとした基準が示される。



写真 学級設営



写真 学級設営

(2) 校内美化の推進

ア 花いっぱい活動（一人一鉢運動）

生徒一人一人が、鉢に花を植える活動を総合的な学習の時間を利用して行っている。年2回実施し、季

節の花々が校内に咲き誇る。

イ 生徒会役員によるボランティア活動

生徒会役員が、自主的に校内美化ボランティア活動を企画し、毎週金曜日に作業を行っている。

ウ 校内緑化運動

学校緑化係等が、校内の廊下や教室の柱やトイレなどに植物を置き、校内緑化に努めている。



写真 柱の植物

4 道徳的心情や道徳的実践力の育成

(1) 道徳研究授業（3年生）

ア 付箋紙の利用

研究授業を参観するにあたり、各自テーマをもって参観した。そのテーマごとに色の違う付箋に自分の意見を書き、貼附してもらった。これらをまとめて校内授業研究を行ったところ、より充実した意見交換が行われた。

<テーマ例>

- ・導入，展開，終末
- ・「思いやり」をどのように授業へ盛り込んだか。
- ・板書
- ・発問

<意見の付箋紙色分け>

- ・黄色：意見，感想
- ・緑色：質問
- ・ピンク：もっとこのようにすれば等

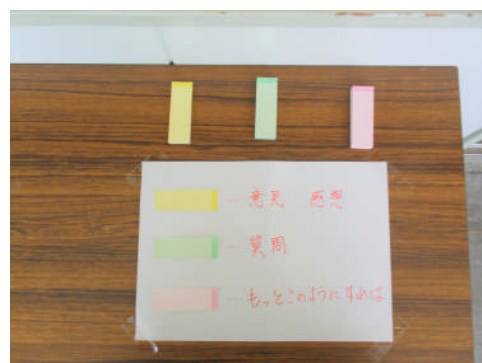


写真 色分けの付箋紙



写真 授業参観の様子

イ 指導演（道徳）

道徳学習指導演

平成21年7月13日（月）5校時

1 単元名 かけがえのない生命（資料名 「二人の子供たちへ」）

2 学習指導要領との関連 3－（2）

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

「（2）生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するようにする。」

3 主題設定の理由

近年、人間関係の希薄化が問題視されるとともに、思いやりの心が不足しているのではないかとされている。それは、全国的に中学生などの未成年によるいじめや社会的な背景から自殺という行為が多発するなど1つの社会問題となっている。それらを含めた生命軽視の風潮は、自己中心の生き方や利益中心の経済

と相まって人々の心を触みつつある。毎日のように報道される悲惨なニュースに無関心になったり、犯罪の若年化が進んだり未来を担う境界人としての中学生に大きな影を落としたりしている。このような中、多くの生徒たちは、ある意味では満たされた平和な時代に生を受け、「生きる」ということの尊さ、厳しさ、有り難さを実感することが少ない。また、中学生のこの時期は、幼少期を脱して成人になろうとしつつある時期にあたり、生命を尊重するという概念を知的には理解しているが、心身の発達が不均衡なために情緒面の不安定さや他者への配慮の欠如などが見られることがあり、動植物などの生命を軽視する行動をとることがある。

命を大切にすることは、自分自身の命を大切に、他者の命もそれ以上に重んじる生き方をめざすことである。しかし、人間が生きているのと同様に、多くの生命がこの地球には存在し、互いに深く関わっている。このことを考えれば、人間はもとより、生きとし生けるものの生命の尊厳や価値に目を向け、互いに支え合って支え合って生きていることに気づかせる指導こそ、人として生き方を強く考えるうえでの根底をなすものと言える。

そこで、本資料の死に直面した父親が、子供たちに残していく遺書を通して「生命の尊さ」や死が自分や周りの人々にどのような影響を与えるのか、また、こらからの生き方を考えさせたい。

以上のような理由から本主題を設定した。

4 指導目標

かけがえのない命を与えられたことへの喜びと感動の気持ちを育て、人間としてのよりよい生き方への自覚を深める。

5 主題に対する生徒の実態

期日	平成21年7月7日(火)実施
対象	男子17名 女子17名 計34名
回収率	100%
方法	質問紙法 (1) 自由記述 (1), (2), (3), (4)

<アンケート調査結果>

(1) あなたは自分の生命について考えたことがありますか

ア よくある 6名

イ ときどきある 19名

ウ ほとんどない 9名

- ・病気になったとき
- ・テレビで災害や犯罪等の報道を見たとき
- ・暇なとき
- ・祖母が亡くなったとき
- ・一人にいるとき
- ・寝ているとき
- ・友達に無視されていやになったとき
- ・憂鬱なとき
- ・人に悪口を言われたとき
- ・命に関わる番組を見たとき
- ・道徳の授業などで
- ・何かに失敗したとき
- ・命についての本を読んだり、ドラマを見たとき
- ・ボーっと考えているとふと思ひ浮かぶ
- ・生まれたときの話を聞いたとき
- ・友情関係がぎくしゃくしたとき

- ・分からない。難しすぎる
- ・特に興味がないから
- ・楽しく過ごしているから
- ・考える暇がない
- ・多分、自分の周りで亡くなった人がいないから
- ・何気なく毎日を過ごしていたから
- ・考えると怖いから
- ・先を考えたくない
- ・人生これからだから

- ・いらいらしているとき
- ・小学校の時に亡くなった友を思い出すとき

(2) もし、あなたの命があと2週間と宣告されたら、残りの日々をどのように過ごしますか。

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ・遊びまくる | ・自由に動く |
| ・大好きな寿司を食べまくる | ・プリクラとかとりまくって、裕福に過ごす |
| ・いつも通り | ・1週間学校行って、残り1週間は家族と過ごす |
| ・家族や友達などの大切な人に「ありがとう」と言って過ごしたい | ・感謝の気持ちを伝える |
| ・おもいきり好きなことをする | ・一瞬一瞬を大切に生きる |
| ・思い残していることを全てする | ・家族や大切な人と過ごす |
| ・サッカーを精一杯する | ・大切な人に会いに行く |
| ・家にこもる | ・魚釣りに行く |

(3) あなたは、「自ら命を投げ打ってしまった人」をどのように思いますか。

- | | | |
|-----------------------|-------------------|---------------|
| ・なぜ一つの命として生まれてきたのに・・・ | ・勇気がある | ・かわいそう |
| ・自分に打ち勝てなくてかわいそう | ・情けない | ・周りの人が悲しんでしまう |
| ・死ななくても他に解決法があったはず | ・馬鹿だなあ | ・悲しい |
| ・自分の生命を粗末にするのはだめだ。 | ・心の弱い人 | ・誰にも頼れなかったのか |
| ・それほどまでに追い込まれてしまったのか | ・生きる勇気を持ってほしい | |
| ・悔しかったろう | ・腹がたちます | |
| ・もっと他の道もあつあはず | ・どんな理由があつてもあり得ない | |
| ・よほど苦しかったのだろう | ・生きてくても生きられない人もいる | |

(4) 自分が死を向かえる時に、一番心残りに成るものは何だと思いますか。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ・けんかをした友人と仲直りできないこと | ・無駄に過ごした時間 |
| ・今まで会った人々 | ・一人の人間として社会に貢献できたか |
| ・家族と別れること | ・人として誰かに生を受け継がせることが出来たか |
| ・親に対しての恩 | ・好きな人のこと |
| ・勉強 | ・夢の実現 |
| ・もっとしたいことをしておけばよかった | ・親孝行 |

(1) より、約7割の生徒が自分の生命について考えたことがあると答えており、中でもマスコミの報道による影響が大きい。また、核家族化が進み、祖父母と同居する家族が少なくなったことや、生き物を飼った経験がないため、生・死に関することに直面した経験が少なくなっている。映像による一方的な情報だけでは生命について真剣に考えるまでには至っていないと考えられる。

(2) より、生徒の記述を見ると、多くの生徒が自分の欲求を満たすために残りの生命を費やそうと考えており、現実のこととしてとらえていない。これもまた、(1)のように生死に直面した経験が少ないことが原因だと思われる。

(3) より、他人ごととしてとらえている生徒と、自分も同じ気持ちになって考えている生徒に分かれている。本時は「生命の尊さ」をテーマにおいて授業を展開するため、自ら死を選択した者への同情や共感だけに終わらせないような指導を行いたい。

(4) より自分が死んだら「家族が心残りである」と答えている生徒が多いが、頭でそう思っているが心の中でそう思っているのが疑問である。その気持ちが誰しもあるのに、その気持ちを思いやることが出来ない今の現代人がこの世に存在している現実を知らせる必要がある。それが、今の「いじめ」の問題にもかかわっているのではないだろうか。

上記調査を通して、今の子どもたちの生命に対する意識を少しではあるが、伺い知ることができた。子どもたちは頭の中では理解しているものの心の中では感じていない面がある。そのため、相手を思いやる気持ちが欠けてしまい裏腹の行動をとってしまうのではないだろうか。今、子どもたちの心の扉を開くために道徳の時間の役割は大きい。本時の資料の「生きてくても生きることでできない親の姿」を心か

ら読み取らせる必要がある。

6 資料観について

本資料は、井村清和著「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」の本の一部を抜粋したものである。父親が不治の病、悪性の骨肉腫から肺癌へ転移し死を宣告され、苦しみながらも残していく子供たちに、遺書を通して何かを伝えようとする話である。死に直面しながらも必死に生き抜こうとする「私」というものを身近に感じさせる強い衝撃力がある。さらに息絶えるまで全力で生き抜こうとする純粋で充実した生き方は生徒の心を揺さぶるであろう。どんな困難にもめげず、生き続けることの尊さを強く訴える教材といえる。

7 本時の実際

(1) ねらい

父親の書いた遺書を通して、死に直面した親が子供に何を訴えたいかを考えることにより、限りある生命を大切に、今後の生命をより一層生き抜いていこうとする心情を育てる。

(2) 資料 「二人の子供たちへ」 (井村 清和 「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」 より)

(3) 準備するもの

読物資料 ワークシート OHP カセットデッキ 録音テープ等

(4) 指導過程

過程	時間		学 習 活 動	発問・指示	指導上の留意点
導 入	7	一 斉 個	1 アンケート調査結果を知る	・先日行ったアンケート調査結果を見てみよう	・黙想により、授業に対する心構えをつくる ・事前に調査したアンケート調査結果から級友の様々な思いを知らせる
			2 生命は有限であることを認識する		
展 開	8 15	一 斉 個 個	3 資料「二人の子供たちへ」のテープを聞く。心が引かれた部分にラインを引き、手紙を書いた「私」の思いをさぐる	・資料に出てくる「私」の気持ちを考えながら聞いてみよう 心が引かれた所にアンダーラインを入れよう ・「私」はどういう状況でこの手紙を書いたのか発表してみよう	・資料を聞いて心を引かれたところに線を引かせる ・「私」の置かれた立場、子供の成長を見守ることのできない悲しさ・つらさをおさえる。
			4 癌と闘いながらも二人の子供たちへ手紙を書いた「父親」の気持ちを考える 5 「父親」の生きる姿勢を通してどんな困難にも負けずに生き続けることの大切さについて考		

			個	える 6 残されていく家族の気持ちを考える	・残される家族の気持ちを考えてみよう	・自分の生命が自分だけのものではないことに気づかせる
	自覚化	15	個	7 教師の体験談等を聞き、自分自身の生命、そして今後の生きる姿勢についてまとめる	・今日の授業を通して、自分自身の思いや今後の生き方を考え、文章にしてみよう	・余韻を残せるようなはなしや教材を用いる ・学習前の自分の考え方を振り返り、これからの自分の生き方を考えさせる。
終末	意欲化	5	個 一斉	8 授業の感想を発表する 9 「生命誕生」のテープを聞く	・授業の感想を発表しよう ・最後に聞いてほしいものがあります	・級友の考えを聞くことにより、生命への尊重や今後の生き方への意欲向上へつなげる

(5) 評価

- ・資料を通して、親が子に対してどのような願いを持っているか感じ取ることができたか。
- ・死に直面した父の姿を通して、限りある命を大切に、自分自身の命を最後まで全うしようとする気持ちを持つことができたか。

(6) 事後指導

- ・日頃の様子や生活の記録等を通して、心の変容をとらえる。
- ・今後の道徳や学活、学校行事等の中で一層、補充・深化させる

ウ 授業の様子



写真 真剣に話を聞く生徒

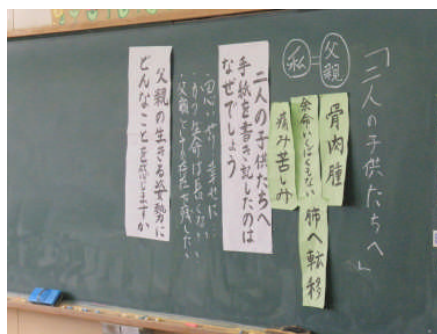


写真 発問と板書



写真 教師の体験談

< 3年部としての取り組み >

ア 3年部全職員による参観

授業を参観し、的確な発問法や生徒の聞く態度の指導法、また終末の教師の体験談等多くの事が参考になった。

イ 参観後の思いやりを取り入れた道徳授業の実施

参観後は、価値の焦点化や板書計画、グループ活動を取り入れた意見の活性化の場面の設定等を重視して、各クラスで授業を実施した。



写真 3年部参観

(2) 道徳研究授業（2年生）



写真 発問の様子



写真 グループ活動

主題 思いやり

資料名 「約束の時間が過ぎて」

・グループで話し合う場面を設定し、考えを深め合った。

<2年部としての取り組み>

ア 今回の研究授業までの取り組み

(ア) 共通実践

題材の選定と指導案・ワークシートの共有

10月に全クラスで「ぼくのスーパーヒーロー」を題材に共通実践を行った。

(イ) 模擬授業の実施

指導案検討の方法として、今回は、先生方を生徒役にしての模擬授業を行った。模擬授業は、短時間でも、生徒の反応の予想や題材をとらえることができる有効な研修方法であるとする。実際の授業の流れを場面によって省略、説明しながら終末まで授業を行い、意見を求めた。



写真 生徒役の先生方



写真 模擬授業の様子

イ 模擬授業について話し合った内容

- ① 自分にとって損か得かということが優先し、日常の中で相手のことを思いやり、行動することがやや苦手である現2年生にとって、さりげない思いやりの行動について考えることは大切なことである。
- ② 指導案の4・5という自分自身の考えを出し合う場面、日常生活の中での自分自身の行動について考える場面に十分な時間を取ることが必要である。そのためにも資料の内容の把握は焦点を絞った方がよい。
- ③ アンケートの結果を導入場面で使うことにより、早い時点で課題について意識化することができるのではないだろうか。
- ④ 教師の発問に答える一斉の形態だけでなく、グループで話し合う場面を設定し、考えを深め合う場面を設定する。
- ⑤ 日常生活の中の「思いやり」について考える事例として、「トイレのスリッパが並べられていない」などの悪い例ばかりでなく、「ちょっとした人の気遣いによれしさを覚えた場面」など良い例を使って考えさせた方がよいのではないか。
- ⑥ 資料の「伝言板」が現代の子どもたちには理解しづらいのではないか。具体的にイメージできる方法を考える必要がある。

ウ 研究授業後の共通実践

今回の授業後、他のクラスでも同じ題材で授業を行う。

(今回の指導案と授業研究の結果を受けて、各自修正を行う。)

(3) 道徳研究授業（1年生）



写真 生徒への発問



写真 発表の様子

主題 思いやりの心
(友のことを思う真の友情とは)

資料名 「二丁目の自動販売機」

・黒板を2段に分け、教材の読み取りと自分たちの考えを分けて考えられるようにした。

<1年部としての取り組み>

ア 題材の設定：本校の教育課程の中にある「指導の重点（1年）2：真の友情や友情の尊さについての理解を深め、よりよい友情を育てようとする心情を養う」と「思いやり」を含めて行いたいと考え、「2丁目の自動販売機（『かけがえのない君だから』）」を設定した。

イ 事前実施：本日の担当クラス（1-6）以外の学級で、以下の要領で実施した。

日時：12月3日（木）5時間目「道徳」

方法：題材のみそろえ、発問計画や板書法、ワークシート等は各担任の方法で行う。

ウ 各学級からの工夫点・感想（クラスの反応）

1組：導入でタイプ別の診断「あなたは、周りの意見に流される方ですか」を行った。生徒の反応は大部分が「はい」であった。また、終末では「心のノート」とリンクさせて「自律」と「他律」に導いた。自律についての質問には積極的に意見が出たが、他律についてはなかなか意見が出なかった。「他律＝他人にコントロールされる」を知るよいきっかけになった。

2組：導入で発問に工夫をした。「公衆電話をかけようとしたら、100円が落ちていたのを見つけました。その時どんな気持ちになりますか。」生徒の反応は、「もらう」16人、「交番に届ける」3人、「そのままにしておく」6人、「親に見せる」8人。中心発問「明が、両手が鉛のように重く感じたのはどのような気持ちからでしょうか」から終末「今までの生活を振り返って、今日学んだことをどのように生かしていきますか。」に導くのが難しかった。

3組：前回の道徳で「友だち」について考え、その時に出たことを導入に用いた。中心発問を「明はこのあとどうしたと思いますか。」としたら、「断った」と考えた生徒が6割だった。「10円でジュースを取り出す。」と考えた生徒が4割で、「友だちがしているから」という意見が多かった。また、目標に「自らの判断で」という言葉を入れたため、生徒の考えを誘導してしまい、反省点となった。

4組：導入で教材には一切ふれずに「今日は誘惑の話なのだけれど、誘惑ってどういうことだと思うか。」という発問をしたところ、生徒から「勉強しなければいけないけれど眠たいという誘惑」や「麻薬への誘惑」など、たくさん「誘惑」に関する意見が出た。そのため、教材に入りやすかった。

エ 指導案完成に向けての話し合い

1年部が重要視したことは「望ましい価値観を深めるための工夫」である。「自律することで、よりよい友人関係を築くことができる」という考えを生徒たちに伝えたいという思いを持って取り組みをすすめた。そのため、「資料分析」「発問」「板書」の3つを工夫した。そうして、本教材の目標は「1-（3）自主・自律、誠実、責任」であるが、「2-（3）信頼・友情」も組み合わせさせた指導案を作成した。

資料分析：長野君に「親友だから話す」と悪事を持ちかけられ、断り切れずに自分の番を迎えた明の葛藤を、「良心」と「好奇心」とだけではなく「友情」も含まれていると考えた。中心発問：「あなたなら、どの時点でどうしますか。」という発問をすることにより、長野君がジュースを取り出す前にとめるという選択もできるようにした。また、「なぜですか。」「そのあとどうなりますか。」という補足発問をすることで、安易にその場の友情を大切にするよりも価値の高い選択肢があるということに気づかせられると考えた。

板書計画：黒板を2段に分け、教材の読み取りと自分たちの考えを分けて考えられるようにした。また、時間軸で書くことにより、気持ちの変化が読み取りやすいようにした。

V その他の研修（外部講師招聘関係）

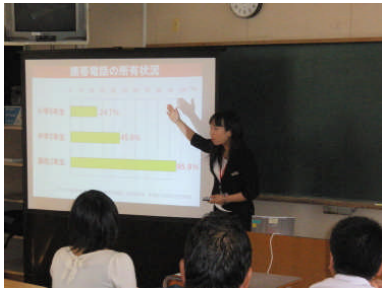


写真 研修（情報モラル）



写真 研修（人権同和教育）



写真 研修（AEDの操作）



写真 研修（修学館高校の取り組み）

今年度も多くの外部講師の方に、来校頂き校内研修を実施した。現在抱える携帯電話やブログ等によるトラブルへの対処法や修学館高校が取り組まれている「7つの習慣J」、人権同和教育の話など、道徳や学活で大いに取り入れられる素晴らしい内容であった。写真以外にも鹿児島市教育委員会から指導主事を招き、指導助言をいただいた。「新学習指導要領」について研修を積み、移行期間の対応等について多くのことを学ぶことができた。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 研究授業をするにあたり、授業者の指導案をもとに、各学年で指導案検討・作成を行った点が第一の成果である。事前授業を他の先生が行ったり、別の学級で行ったりして研究授業に臨んだ。また、模擬授業などを実施し、学年での検討をすることでよりよい指導案が出来上がり、また学年の連帯感や道徳に対する意識の高揚がさらに図れた。
- (2) 花いっぱい活動や職場体験活動、資源リサイクル活動、生徒会によるボランティア活動など様々な体験活動を実施している。これらの体験活動と道徳の時間（思いやり）を通して、総合单元的に進めた結果、生徒は思いやりの心を育てるとともに、ボランティア精神や働く大切さを学び、また、勤労観・職業観の育成の一端を担うことができた。
- (3) 道徳的指導力を高めるために、外部講師等から多くの具体的実践やアドバイスを頂くことができた。教師自らが学ぶ姿勢を持ち、日々の活動に取り組むことができた。

2 今後の課題

- (1) 思いやりの心を育てるために、道徳の授業だけでなく、学校のあらゆる活動において、常日頃から意識して取り組んでいきたい。
- (2) 現在取り組んでいる心の教育の充実や学業指導の充実、道徳教育の推進を継続的に続けていきたい。そのためには、教師の連携を密に行い、校内研修の充実に努めていきたい。
- (3) 新学習指導要領についての研修を計画し、様々な体験活動と特別活動や道徳などを系統性を持たせ、より効果的なカリキュラムの実施に努めていきたい。